

平成25年度

運営に関する計画

大阪市立新巽中学校

大阪市立新箕中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

【視点 学力の向上】

- ・ 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・ 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・ 平成 25 年度～27 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや問題行動について、解決に向けて対応している割合を毎年 100%にする。 (カリキュラム改革)
- ・ 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・ 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・ 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 (カリキュラム改革)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ・ 毎年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を、毎年、前年度より増やす。 (カリキュラム改革)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ・ 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・ 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・ 平成 25 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや問題行動について、解決に向けて対応している割合を 100%にする。 (カリキュラム改革)
- ・ 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・ 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革)
- ・ 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ・ 平成 25 年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を高める。 (カリキュラム改革)

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

- ◎ 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革)
 - ・ 1 年 45.2% 2 年 34.9% 3 年 54.0% 全体 44.2%であり、目標値の 75%以上を下回った。
- ◎ 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革)
 - ・ 1 年 62.2% 2 年 48.3% 3 年 76.4% 全体 61.4%であり、目標値の 75%以上を下回った。
 - ・ 保護者アンケートの「分かりやすくするための工夫をしている」と答える保護者の割合は 1 年 56.4% 2 年 35.1% 3 年 60.0% 全体 47.7%であり、保護者アンケートからも下回った。

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ◎ 平成 25 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや問題行動について、解決に向けて対応している割合を 100%にする。 (カリキュラム改革)
 - ・ 学級、学年、学年間、他校との間に生じたいじめや問題行動について、100%対応し解決してきた。生徒アンケートの「いじめや校内暴力など困っていることについて対応してくれる」と答える割合は 1 年 58.3% 2 年 48.8% 3 年 72.6% 全体 59.6%と認識の違いが表れている。
- ◎ 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革)
 - ・ 1 年 59.3% 2 年 60.6% 3 年 72.0% 全体 63.8%、3 年が僅かに下回った。1・2 年、全体では 75%を下回った。
- ◎ 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革)
 - ・ 1 年 85.5% 2 年 83.7% 3 年 90.6% 全体 86.4%、全学年とも目標値 75%を上回った。
- ◎ 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革)
 - ・ 1 年 54.1% 2 年 57.5% 3 年 65.9% 全体 59.0% 目標値 80%を下回った。
 - ・ 「信頼できる友達がいる」との質問には 1 年 90.5% 2 年 91.9% 3 年 90.3% 全体 91.0%あり、全学年で 90%を超えている。

【視点 健康・体力の保持増進】

- ◎平成 25 年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を高める。 (カリキュラム改革)
 - ・ 1 年 97% 2 年 96% 3 年 91% 全体 94%と高い割合であった。

大阪市立新箕中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、「よくあてはまる(ややあてはまる)」と答えた生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革) 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「授業内容・方法を工夫している」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革) 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【授業内容（わかる授業）の充実】 国語、数学、英語、理科において、年間を通じて計画的に理解度に応じた授業を実施する。 指標 生徒アンケートで「授業でわからないことなど気軽に先生に質問することができる」と答える生徒の割合を前年度より増やす。	C
取組内容②【各教科の指導力の向上】 相互参観授業や公開授業を通して、教員一人一人の授業力の向上を図る。 指標 研究協議をともなう研究授業を年間 9 回以上実施する。	A
取組内容③【自主学習習慣の確立】 各教科での宿題、課題、作品等の提出物の指導を徹底する。 指標 各教科での提出率を 100%にする。	B
取組内容④【読書活動の充実を図る】 各学年で「読書活動」を計画的に実施する。 指標 校内アンケートで「読書が好き」と答える生徒の割合を前年度より増やす。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 取組内容①の指標では 1 年 51%→35% 2 年 85%→72% 3 年 57%→72% 全体 64%→55%と前年度を下回った。 加配教員を活用し、国語・数学・理科・英語は習熟度別少人数授業や分割授業を実施して、低学力対策に取り組んできた。 学校元気アップ支援員を中心に P T A ・学生ボランティアを活用し、夏季休業中にサマースクールを実施した。また、毎週木曜には放課後学習やテスト前の補充授業にも取り組んだ。 小学校への出前授業を実施した。6 年生の様々な実態をより正確に把握できた。 取組内容②の指標 研究授業を計画どおり 9 回実施した。研究協議への参加者数が増えてきた。 	

- ・取組内容③の指標 学習ガイドブックを作成・配布し、家庭学習の進め方を具体的に示し、自学自習の定着に努め、提出物の指導を継続してきたが 100%には至らなかった。
- ・取組内容④の指標 1年 33% 2年 40% 3年 44% 全体 39%であった。前年度との比較はできなかったが図書館の利用者は確実に増加してきた。
- ・学校図書館の活用を積極的に働きかけたり、蔵書の増冊に努めてきた結果、読書習慣を身につけた生徒が増えてきた。

次年度への改善点

- ・ 国語・数学・英語・理科の教科は分割授業や習熟度別少人数授業等の個に応じたきめ細やかな授業展開を図り、基礎的・基本的内容の確実な定着を図る。
- ・ 授業について行けなくあきらめたりしている現状を改善するために、提出物や宿題の徹底、授業態度の注意、分かりやすいプリントづくり、興味を引き出す教材など改善を進める。
- ・ 目標に準拠した評価とカリキュラムの一体化を進める。また、シラバスを作成し、評価基準を公開する。
- ・ 家庭学習の習慣化に向けて、更に具体的方策の工夫が必要である。
- ・ 地域との連携を深め、放課後学習や図書館活用の展開などを工夫する必要がある。

大阪市立新箕中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめや問題行動について、解決に向けて対応している割合を 100%にする。 (カリキュラム改革) 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革) 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「学校のルールを守るよう心がけている」と答える生徒の割合を 75%以上にする。 (カリキュラム改革) 平成 25 年度末の生徒アンケートにおける「学校では生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 (カリキュラム改革) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【いじめ・問題行動への対応】 相談活動を充実させ、生徒の変化等の早期発見・早期対応に努め、未然防止に努める。	A
指標 学期に 1 回以上カウンセリング活動を実施したり、毎週金曜日に「一週間の振り返り」を実施し、実態把握をする。	
取組内容②【基本的生活習慣の確立】 朝のスタートを大切にし、時間を守る意識を高める。	B
指標 生徒会活動を活発にし、「朝のあいさつ運動」などの自主活動を行う。	
取組内容③【規範意識の育成】 「遅刻、服装、忘れ物」等の指導を通して、自律した生徒の育成を図る。	B
指標 校内アンケートで「学校のルールを守っている」と答える生徒の割合を昨年度より増やす。授業規範について、講師を招聘して研修会を年 1 回実施する。	
取組内容④【道徳教育の充実】 心の葛藤を通して、よりよい生き方を求める態度を養う。	B
指標 読み物教材の指導時数を昨年度よりも増加させる。	
取組内容⑤【豊かな心の育成】 芸術を身近に感じ親しむことで、豊かな感性を育む。	A
指標 年に 1 回は、本物の舞台芸術を体験させる。読み物教材の指導時数を昨年度よりも増加させる。	

<p>取組内容⑥【大阪らしさを活かした取組】</p> <p>大阪市内の施設や史跡を実際に訪れることで、「郷土おおさか」を愛する心を育てる。</p>	B
<p>指標</p> <p>フィールドワークや調べ学習を行い、能動的な学習態度を養う。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容①の指標 各学期の初めに相談週間を設定し活動を行った。休業期間中の生徒間、学校間のトラブルの有無などの早期発見と未然防止に役立った。毎週金曜日に「一週間の振り返り」を実施し、実態把握をすることによって、日常生活の中でのいたずら行為がエスカレートしてしまうことが多かった。保護者と連携して解決してきた。 ・「いじめは、いつ、どの学校にも起こり得る」を基本姿勢に、未然防止、早期発見・早期対応を最優先に取り組んできた。 ・暴力による解決は許されないと指導を続けてきた。結果、前年度よりも減少した。今後も指導を継続していく。 ・取組内容②の指標 生徒アンケートから「大きな声であいさつをしている」 1年 42.3% 2年 58.9% 3年 64% 全体 55.2%で、学年にもよるが約半数の生徒が大きな声であいさつをしている。 ・同じく「規則正しい生活を心がけている」1年 59.3% 2年 60.6% 3年 72% 全体 63.8%と意識は持っている。 ・取組内容③の指標 生徒アンケート「決められた服装や決まりを守っている」の結果より 1年 85.5% 2年 83.7% 3年 90.6% 全体 86.4%と規範意識(ルールを守っていこうとする気持ち)をもつ生徒が増えてきている。今年度は関西学院大学教授 中村 豊 先生による「ソーシャル・スキル(集団の中でルールを守らせるには)」講演を受けた。 ・取組内容④の指標 3年生で「道徳」の研究授業を取り組み、道徳心の向上に寄与した。「道徳」の時間を100%確保することは困難であった。 ・取組内容⑤の指標 2年生で地下鉄ラリーを実施した。また、中国雑伎団による「孫悟空」を鑑賞した。迫力のある舞台とマスクの早替わりに関心させられた。 	
<p>今後への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を持つ生徒が増えてきているが、まだ一部にルールを軽視する態度や行為が見られる日々の生活の中で粘る強く指導を継続する。 ・携帯やネット上のトラブル防止や情報モラルについて、保護者の協力を得ながら生徒や社会の実態に合わせた指導を行っていく。 ・道徳の項目、題材を含め詳細な年間指導計画を作成し、各学年で副読本を使用して道徳授業の時間を100%確保する。 ・朝のあいさつ運動だけでなく、新入生対面式や3年生送る会など生徒会が積極的に活動できる場面を設定し、活発化する。 	

大阪市立新箕中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
・平成 25 年度末の校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を高める。 (カリキュラム改革)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【食育の充実】 食育だよりの定期発行や、講師を招いての講話を行い、食の大切さに対する意識を高める。 <hr/> 指標 校内アンケートで「健康のために食事を好き嫌いせず、残さず食べるように気をつけている」と答える生徒の割合を昨年度より増やす。	B
取組内容②【体力向上への支援】 体育の授業時に「体力づくりトレーニング」を継続的に行う。 <hr/> 指標 体力テストで、昨年度を上回る項目を増やす。	B
取組内容③【男女共生教育の推進】 視聴覚教材を効果的に用いて「性教育」の実践を行い、命の大切さに対する意識を高める。 <hr/> 指標 校内アンケートで「命の大切さについて学ぶ機会がある」と答える生徒の割合を高める。	B
取組内容④【健康な生活習慣の確立】 保健だよりを定期的に発行し、自己管理能力を向上させる。 <hr/> 指標 校内アンケートで「健康に気をつけている」と答える生徒の割合を昨年度より増やす。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおいて「朝食を毎日食べる」生徒の割合を高める。 1 年 97% 2 年 96% 3 年 91%と学年が進行するとともに「朝食を毎日食べる」割合が減少してきている。「食べない理由は何ですか」という設問では 1 年 96%が時間がない。4 %食欲がない。2 年 93%時間がない。7 %食欲がない。 3 年 92%時間がない。7 %食欲がない。無回答 1 % ・取組内容① 毎月食育だよりを発行し、食に対する意識を高めた。残念ながら講師を招聘しての講演はできなかった。 ・全校生徒を対象として 10 月末から 11 月初めに「生活習慣に関するアンケート」を実施した。また、文化発表会では「睡眠」について、保健美化委員会が映像作品を制作した。 ・取組内容② 体育委員を中心とした授業での取組が徐々にではあるが成果が出てきている。自 	

主的に・意欲的に取り組む生徒が増えてきた。

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、男子の総合評価A0% B10.6% C44.7% D34.0% E10.6%で昨年を僅かに下回った。女子A30.2% B39.5% C18.6% D9.3% E2.3%であった。昨年来上回った。

・取組内容③ 外部講師に講演を依頼した。

・取組内容④ 保健委員会から毎月「保健だより」を発行してきた。1年 喫煙、2年 喫煙、3年 感染症をテーマに総合の時間を活用し取り組んだ。毎月の保健美化委員会で美化目標を設定し、啓発している。

次年度への改善点

- ・男子の場合、運動やスポーツをすることを「苦手」と回答した生徒の割合は11.8%。運動やスポーツをすることを「きらい」と回答した生徒の割合は1.9%であった。
- ・女子の場合 運動やスポーツをすることを「苦手」と回答した生徒の割合は11.6%、「やや苦手」と回答した生徒の割合が25.6%。運動やスポーツをすることを「きらい」と回答した生徒の割合は7.0%。「ややきらい」と回答した生徒の割合が14.0%であった。
- ・保健体育の授業や部活動、様々な体育的行事などを通じて、生徒一人一人が活躍できるよう工夫し、苦手意識の克服を図る。体力づくりのための自主的な基礎運動への取り組みが継続していくことが必要である。
- ・性に関する教材・指導案の保存や引き継ぎ、実態に合わせるための再検討を進める。
- ・生活アンケートは次年度より年2回実施する。上半期と下半期との比較により、きめ細かく生徒の生活習慣の改善に役立てる。
- ・性教育を実践する際に事前に性教育担当で教材や指導内容、指導方法等を検討するとともに、指導案や実践結果の保存、引き継ぎ、再検討を継続して行っていく。